

令和2年度 事務事業総点検表(1次評価)

会計室

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)		⑧事業費			⑨人工			
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)
会計室	1297	公金の安全かつ効率的な運用	H 15 ~	市(直営)	市民の財産である公金の運用にあつては、安全性を最優先しつつ最も効率的かつ有利な運用に努める。	資金収支計画を精査し余裕資金について、確実により有利な利率での運用を行う。	①預金引合本数(基金単独分含む) ②債券購入回数	①130本以上 ②2回以上	①26本 ②4回	一般	31	—	0	1.0	0.0

成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など				
⑩成果指標(アウトカム指標)						実績値	達成度	⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					
		R1	H30	H29						
運用利子額	172,000千円	174,446千円	182,858千円	179,326千円	保有の地方債等の債券及び昨今の金利情勢を勘案し、下記のとおり目標値を算出した。 ・基金運用(債券)分 169,000千円 ・基金運用(預金)分 1,000千円 ・合算運用(預金)分 2,000千円	188,799千円	S	S	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、市税の減収や財政調整基金の大幅な減少により、資金の運用よりも運転資金の確保を最優先にせざるを得ない状況にあった。 このような中、預金運用については預金の引合を控えたため本数の目標値を下回ったが、金融機関の資金需要が増加したため、運用利率が予定を上回り、運用利子額の目標値を上回ることができた。 また、債券運用についても、国債の利率が上昇したこと等により、運用利子額の目標値を上回ることができた。	マイナス金利政策の影響により預金の金利は未だ低水準であるが、引合の成立件数は増加傾向にある。そのため、引合本数を増やし成立機会を確保するという方針から、預金の金額及び期間を伸ばし運用益を確保するという、低金利時代の金融情勢に即した方針へと転換するため、基準の見直し等を実施していく。 また、債券運用については、債券需要の高まりにより入札が不調となる傾向があるため、新規発行債を購入する等、購入方法の見直しを実施し、有利な債券運用を実施していく。